

## 令和3年度 第1回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

- 1 日 時 令和3年7月28日（水）午前10時～午後12時
- 2 場 所 生駒市コミュニティセンター 4階 402・403
- 3 出席者  
（委員）大谷裕美子委員（議長）・吉井香織委員（副議長）・浦林直子委員・岡本純子委員・上武敏一委員・白樫学委員・清水泰之委員・土本みさ子委員・中嶋宏明委員・中田弘司委員・松尾正則委員  
  
（事務局）原井教育長・八重生涯学習部長・清水生涯学習課長・井川生涯学習課長補佐・西野図書館長・錦図書館北分館長・中谷図書館南分館長・平澤駅前図書室室長・西スポーツ振興課長・上中生涯学習文化係員・上田生涯学習文化係員  
  
（欠席者）大辻哲男委員・近藤裕一委員・徳田浩平委員  
（会議の公開・非公開） 公開  
（傍聴者）なし

### 4 議事内容

- 教育長挨拶・委員紹介・事務局紹介
- 審議案件
  - （1）副議長の選出について  
全会一致で、副議長は吉井香織委員に決定。
  - （2）令和2年度「社会教育基本方針及び重点目標」にかかる実績報告について  
事務局から説明
  - （3）重点目標にかかる令和3年度の事業について  
事務局から説明

#### 審議案件（2）について

（令和2年度実績報告についての質問や意見）

（質 疑）

白樫委員            コロナ禍の中で工夫して様々な事業を開催されていることに感謝したい。社会教育委員に就任していても知らない事業があり、生駒市保育会としても、子どもたちの体験や成長の機会とするため、事業の周知をしていきたい。

清水委員            他市と比較しても生駒市は様々な事業を実施しており、その点は素晴らしいと思うが、実績報告については数値よりも、参加した市民にとってどうであ

ったかの成果を報告してほしい。社会教育の目標を「地域とつながる機会づくり」としており、実際に事業を通じて機会を提供し、市民にどのような変化があったのかを知りたい。エピソードや参加者の意見を交え、もっと市民の姿が見える様な総括をお願いしたい。

上武委員            コロナ禍の中で様々な工夫で事業を開催され、感心している。ワクチン接種が徐々に浸透し、次年度は更なる開催に期待している。最近気になっていることに、子どもたちの社会性や人間力が育っていないと感じる。成績や点数に現れない部分だが、生駒市で将来の仕事に役立つような社会性や人間力を教育し、育つことを期待している。

岡本委員            新型コロナウイルスの影響で、サマーフェスタが中止となってしまったが、オータムフェスタとして今年度は開催を予定している。生駒は図書館の事業が多く、生駒市子どもの本連絡会の一員として様々な事業に関わってきたが、全体の事業の実績を聞き、知らない活動もあったので、今後横のつながりをつくっていききたい。

浦林委員            （生駒市生涯学習施設年報のデータより）寿大学の実務講習会のプログラムが定員に対して参加者が少なくもったいないと感じた。コロナの影響か、周知方法なのか、それともニーズに合っていないのか、理由はどこにあると考えているか？

事務局              寿大学は新型コロナウイルスの影響で休学者が多く、参加人数が少ないのは事実。ただし、参加人数の少ない講座の中には、他課が主催の広く市民を対象とする講座もあり、もともと寿大学の学生だけで定員に達することを想定していないことをご理解いただきたい。

浦林委員            Zoomを始めとするオンライン会議システムは高齢者にはハードルは高いと思われるが、市民活動センターでのZoom講座や誘いかけで使えるようになって喜んでおられる高齢者の方の姿を目の当たりにし、今後高齢者だからオンライン会議は難しいと決めつけずに、取り組みをしていくと良いのではと考えている。

事務局              今年度の寿大学の講座ではスマホを使いこなせていない高齢者の方を対象に、企業と連携した講座を予定している。

浦林委員            図書館事業の寿大学の卒業生による本修理ボランティアの取り組みは、本人にとって生きがいにもなるし、学びを社会貢献に生かせることがとても良いと感じた。今後、全ての人が本に触れる機会を増やすことにつながる障がい者向けの取り組みの広がりもあると聞いているので、期待している。

事務局              本の修理ボランティアについては、具体的な目標があるのが良かったと分析

している。受け入れていただく学校側の体制を心配していたが、子どもたちと一緒に修理をしたり、修理の様子を見学する機会をつくるなどして今後も学校へつないでいきたい。障がいのある方を対象とした代読サービスを今年度開始する予定である。

浦林委員 上武委員の意見にもあったが、子どもたちの社会性や人間力の育成について、市が募集する事業への若者のリアクションが少ないことを残念に思う。参画してほしいという思いが若者にきちんと届かないままではいけないので、委員としてワクワクして楽しそうな内容を伝えられないかと考えている。

大谷議長 事務局の実績報告では、子どもの変容についても詳しく教えて欲しい。事業参加前と参加後の感想を伝えてもらう等、意識してコメントを拾って共有して欲しい。社会性や人間力については、社会教育の評価方法を考える良い機会に来ていると考えている。数値に出来ない部分をどう評価していくかが我々の課題だと考えている。そのためにも大人の背中を見て学ぶ機会を増やしていくことが大切。

土本委員 コロナ禍の中で、中止という選択を取るのではなく、工夫して様々な事業を開催され感謝している。前回の重点目標報告時に移動図書館の取り組みの紹介があり、高齢者にとっても利点が多く期待をしていたが、現状を教えて欲しい。

事務局 移動図書館については、実施しなかったが、生駒はせまい道も多く、現状の施設に加えてもう一つハードを増やすことは、人件費や維持費等の費用面でもハードルが高く事業取りやめとなった。ただ、物を用意できないから諦めるのではなく、根本的な考え方を改めて何か形を変えて、必要な方に必要な本を届けられるような事業を始めたいと考えている。

土本委員 重点目標には「あらゆる市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ります。」とあるが、高齢者が気軽に健康づくりできる場所が少ないので、ぜひ機会をつくって欲しい。

事務局 小平尾町に軽度なメニューで気軽に運動できる高齢者向けのスタジオ施設がある。「スポーツの日」についても卓球コーナーなど高齢者の方もたくさん参加いただいた。今後も積極的に啓発し、高齢者の方にも健康づくりの大切さを知ってもらう活動を続けていく。

中嶋委員 昨年に続いて新型コロナウイルスの影響で生駒市民文化祭の邦楽邦舞発表会が開催できていない。施設の利用制限や、練習がままならず発表に至らない状況になっている。オンラインを活用した方が良いと感じたが、言うだけでは前に進んでいけないので、日頃から「心がけ」ないといけないと考えている。

ユースネットいこまの活動報告はとてありがたいと感じている。相談実績の数値を伺ったが、実際多いのか少ないのかが分からないがどうか。活動を続けているからには進んでいると見ているが、相談者のその後の状況の追跡等は行っているのか。

事務局 内閣府が発表しているニート、ひきこもりの調査結果から推計して、市内には約600人の当事者がいると想定している。これまでユースネットいこまでは約200人の当事者に相談支援を行ってきたが、まだ届き切っていないのが現状。当事者ご自身やご家族が困っていないとそもそも相談窓口につながってもらいにくいことも課題である。

中嶋委員 コミュニティ・スクールが本格的に始まっているが、地域の方がどんどん学校に入っていくことが大事。校長先生に全て押し付けるのではなく、みんながどれだけ真剣に取り組むかが重要だと考えている。そのためには意識の改革が必要。難しい部分だがよろしく願いたい。

中田委員 コロナ禍の中で事業を中止するよりも開催していこうとする姿勢が良いと思った。寿大学卒業生による本修理ボランティアの活動実績を見て今後進むべき姿を見たような気がする。

議論に出た子どもたちの社会性については、かつて市が直接実施していた市内小学生のリーダー研修会や中高生の「あすなろ会」などの運営について生駒市子ども会育成連絡協議会に移管している現状を見ていると、市が直接子どもを見ておらず、適切に実態把握や評価が出来ていない部分に課題を感じている。過去の宿泊研修等では、子ども同士の思いやりの姿を見ることができたが、その場に市の職員がいないことに問題を感じている。職員がもっと子どもたちの活動の中に入って、数字だけでは表せない部分をもっと見るべきではないかと考えている。

事務局 子どもたちとの直接のつながりが少ないことは問題に感じているところだ。全ての事業を市の直営で行い、全てに関わることは難しいが、実態を知る取り組みは続けていきたいと考えている。

松尾委員 地域の活動を通して、継続は力なりと強く感じている。自治会合同でむかいやま公園にてスポーツ大会を実施していたが、一昨年の70人程度の参加から、昨年継続することで100人以上の参加を記録した。市民は外で人と人が触れ合う機会を求めていることを実感した。南地区では、28の自治会で大運動会を開催していたが、新型コロナウイルスの影響で2年連続中止となってしまった。大運動会は地域の教育の一環であり、来年はぜひとも開催したい。

近年、親が子ども会の役員を辞めることが多く、子ども会はどんどん縮小の傾向にある。この課題は今後どうしていくべきと考えているか。子ども会の活動が継続できていないことを残念に感じている。

コミュニティ・スクールはとても大事な取り組みだと感じている。学校が関与しにくい部分を学校運営協議会の委員が中心となって考えることが大切だと考えている。これからもコミュニティ・スクールの活動をぜひ継続して欲しい。

吉井委員 学校に関する話題がたくさん出てきてとてもありがたいと感じている。今学校現場で心配しているところは、新型コロナウイルスの影響で音楽・技術・家庭科・美術・体育などの実技をともなう授業の時間数と質が低下していることだ。家庭科では、実際の調理を行えず模擬調理を見るだけ、音楽の授業では飛沫感染の心配から、歌やリコーダーの指導が行えない等、現状の教育を続けた子どもたちが今後どうなっていくかととても心配している。更に昨年度は例年行っている地域の高齢者と子どもたちの協働活動や体験活動がほとんど実施できなかったことが残念だった。今年度はワクチンも徐々にいきわたり、体験活動が通常通り行えることを期待している。

大谷議長 貴重なご意見を多数いただきありがたく思う。今後の取組に、ぜひ委員のみなさんの考えや思いが反映されることを願っている。

#### 審議案件（3）について

（重点目標にかかる令和3年度の事業についての質問や意見）

中田委員 ふるさつを見直すという部分で、生駒ふるさとミュージアムの取り組みや市史偏さんも素晴らしいが、健康課が作成している健康マップ（ハイキングによる健康力アップと生駒のまちを知ることを同時に行える）等他の課でも素晴らしい取り組みが数多くあるので、各課で考えるよりも、プロジェクトチームを組んでまとまって取り組む方が効果的ではないかと考えている。市の大規模防災プロジェクトでたけまるホールに伺ったときに和室の畳を見た時に感じたが、移動式の畳を導入する等、形から入る茶道等、新しい取り組みを今後考えていきたいと思っている。

大谷議長 コミュニティ・スクールの取り組みが今後進んでいくと、例えば家の畳を寄附してあげるよ、という案が自発的に出てくるなど、つながりができることで広がりが出てくる。「予算が無いから出来ない」と終わってしまう時代ではなくなってくると予測している。

浦林委員 これから学校と気らくネットとの活動が進んでいくと思うが、その場に寿大学の卒業生の方が参画してくださるのは良いことだと感じている。ただ、スクールボランティアのように今後組織立って事業を進めていくには、学校の実態をしっかり理解していただいた上で、学校内での子どもたちのプライバシーへも配慮して連携することが大事だと考えている。

清水委員            コミュニティ・スクールの取り組みは、単に「お手伝いしてあげたら良い」ということではなく、コミュニティ・スクールの目的や学校の実態も理解したうえで、学校に入っていくことが大切である。

大谷議長            何よりも、子どもの心を傷つけることがないように、学校は安心出来る場所であるはずなので、より安心出来る学校づくりのために研修の機会をつくるなど、行政として出来る限りの取り組みを実施して欲しい。

その他

事務局からの事務連絡

閉 会